

- 問1 戦国時代の九州を代表する大名で、現在の府内（大分市）を拠点にキリスト教を保護し、有馬晴信や大村純忠とともにローマ教皇のもとへ「天正遣欧少年使節」を派遣した人物は誰ですか。 （2025年 京都府公立入試 類似）
1. 北条氏康 2. 朝倉義景 3. 大友宗麟 4. 今川義元
- 問2 15世紀末、ポルトガルの航海者がアフリカ大陸南端の喜望峰を回ってインドに到達したことで、ヨーロッパからアジアへの直接的な海上ルートが確立されました。この人物が切り開いた「インド航路」について述べたものとして、最も適切なものを答えなさい。 （2017年 高知県公立入試 類似）
1. マルコ・ポーロが、陸路でアジアを訪れた帰路に発見した。 2. バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。 3. フェルディナンド・マゼランが、世界一周航海の一環として立ち寄った。 4. クリストファー・コロンブスが、西回りでアジアを目指す途中に到達した。
- 問3 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国内を統治し、家臣や民衆を統制するために独自に制定した法律を何というか。 （2021年 沖縄県公立入試 類似）
1. 御成敗式目 2. 武家諸法度 3. 公事方御定書 4. 分国法
- 問4 室町時代に足利義満が開始した、大陸との外交や貿易の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。 （2023年 神奈川県公立入試 類似）
1. 幕府が発行した「朱印状」を携えた船が、東南アジアの諸港へ出向いて、香料や絹織物などを取引する自由貿易を行った。 2. 明の皇帝から「日本国王」として認められた義満は、倭寇と正式な貿易船を区別するために「勘合」という札を用いる日明貿易を行った。 3. 博多湾を襲撃した元軍を退けた後、元の優れた文化を導入するために、北条氏が中心となって大陸との官民一体の貿易を推進した。 4. イエズス会の宣教師であるフランシスコ・ザビエルの布教を保護する条件として、ポルトガル船との間で南蛮貿易を開始した。
- 問5 戦国大名の武田晴信（信玄）が定めた「甲州法度之次第」のように、大名が独自に法を定めた背景を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を答えなさい。「戦国大名は、幕府の法が及ばなくなった自分の（ ）において、家臣の勝手な婚姻を制限したり、領民を管理したりすることで支配を強化しようとした。」 （2023年 山口県公立入試 類似）
1. 藩 2. 領国 3. 荘園 4. 幕領
- 問6 応仁の乱ののち、実力で領地を広げた戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を支配するために独自に制定した法律を何といいいますか。 （2023年 静岡県公立入試 類似）
1. 分国法 2. 御成敗式目 3. 建武式目 4. 武家諸法度
- 問7 戦国大名の武田信玄が制定した「甲州法度之次第」のように、当時の有力な大名たちが独自の法律を定めた主な目的として、最も適切なものはどれですか。 （2024年 千葉県公立入試 類似）
1. キリスト教の布教を制限し、外国との貿易を大名が独占するため 2. 朝廷から与えられた官位の順序に従って、家臣の序列を整理するため 3. 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため 4. 室町幕府の命令を全国の農民に守らせ、将軍の権威を強めるため
- 問8 日本列島の地理的区分において、中国地方の日本海側に位置する島根県にあり、戦国時代に大名の保護を受けた商人たちによって大規模な開発が進められた銀山はどれですか。 （2023年 岐阜県公立入試 類似）
1. 生野銀山 2. 石見銀山 3. 足尾銅山 4. 佐渡金山
- 問9 室町時代後半に見られた、実力で上の身分の者を圧倒する社会的な風潮の中で、それまでの守護に代わって台頭した勢力があります。自らの力で領地を拡大し、独自の法律である「分国法」などを定めて領国を支配したこれらの勢力を何と呼びますか。 （2020年 千葉県公立入試 類似）
1. 地頭 2. 戦国大名 3. 守護大名 4. 御家人
- 問10 16世紀、カトリック教会の一部門として結成されたイエズス会が、日本をはじめとするアジアや南米への布教活動を積極的に行った背景として最も適切なものはどれですか。 （2017年 徳島県公立入試 類似）
1. ヨーロッパで宗教改革が起こり、カトリック教会が失った勢力を回復しようとしたため 2. ルネサンスの影響で科学技術が発達し、キリスト教以外の新しい宗教を広める必要があったため 3. プロテスタントの教えを世界中に広めることで、教皇の権威をさらに高めようとしたため 4. 十字軍の遠征が失敗したため、軍事力ではなく信仰によって聖地を奪還しようとしたため
- 問11 戦国大名が制定した「分国法」の内容や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 （2023年 山口県公立入試 類似）
1. 明治政府が近代的な国家を樹立するために、国民の権利と義務を定めた。 2. 江戸幕府が全国の大名を統制するために、城の修理を制限することなどを目的とした。 3. 鎌倉幕府が御家人同士の土地争いを公平に裁判するために、源頼朝以来の先例をまとめた。 4. 領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。
- 問12 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。 （2018年 福島県公立入試 類似）
1. ローマ教皇の命令 2. 教会が定めた儀式 3. 聖書 4. 免罪符（贖宥状）
- 問13 戦国時代、石見銀山などの鉱山開発が各地で盛んに行われた背景として、戦国大名が銀を求めた主な目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 （2023年 岐阜県公立入試 類似）
1. 農村での貨幣経済を禁止し、年貢をすべて銀で納めさせるため 2. キリスト教の布教活動を支えるための寄付金として活用するため 3. 朝廷から高い官位を得るための献上物として独占するため 4. 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため
- 問14 16世紀半ば、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが日本を訪れ、キリスト教を伝えた当時の世界情勢に関する説明として最も適切なものはどれか。 （2020年 埼玉県公立入試 類似）
1. 十字軍の遠征が成功したことで、キリスト教勢力がイスラム教勢力を圧倒し、アジア全域での布教が容易になっていた。 2. ヨーロッパで宗教改革が起こり、勢力を立て直そうとするカトリック教会が海外への布教を積極的に進めていた。 3. 宗教改革によって誕生したプロテスタントの諸国が、アジアにおける植民地支配を広めるために宣教師を派遣していた。 4. ルネサンスによる科学の発達により、日本の戦国大名から西洋の進んだ宗教や文化を導入したいという正式な要請があった。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 大友宗麟	大友宗麟は豊後（大分県）を本拠地とした有力な戦国大名です。フランシスコ・ザビエルの布教を認めて以降、キリスト教を厚く保護し、海外貿易を積極的に行いました。1582年には、伊東マンショら4人の少年をローマへ派遣する使節の送り主の一人となりました。
問2	答え 2 バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。	大航海時代において、ポルトガルはイスラム勢力が支配する陸路を避け、直接アジアの香辛料を手に入れるために海路の開発を進めました。1498年、バスコ・ダ・ガマがアフリカ南端の喜望峰を越えてインドのカリカットに到達したことで、アジアとの直接的な海上交易ルートが確立されました。これにより、ヨーロッパの経済・社会に大きな変化がもたらされました。
問3	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は実力で領土を治める必要がありました。そこで、領国支配を安定させるために独自の法規範である分国法を制定しました。これは、大名の権力を強化し、家臣同士の私的な争いを禁じる役割を果たしました。
問4	答え 2 明の皇帝から「日本国王」として認められた義満は、倭寇と正式な貿易船を区別するために「勘合」という札を用いる日明貿易を行った。	室町幕府の3代将軍である足利義満は、明との国交を樹立し、日明貿易（勘合貿易）を始めました。この貿易では、当時沿岸部で活動していた海賊（倭寇）と正式な使節を区別するために、「勘合」と呼ばれる照合用の札が使われたのが大きな特徴です。
問5	答え 2 領国	戦国大名が直接支配を及ぼした範囲は「領国」と呼ばれます。江戸時代の「藩」や、中世の貴族・寺社の土地である「荘園」とは区別されます。分国法は、この領国内でのルールを明確にすることで、大名の権威を確立し、富国強兵を進めるための重要な手段でした。
問6	答え 1 分国法	室町時代の中期から後期にかけて、幕府の権威が衰え戦乱が全国に広がる中、各地に戦国大名が登場しました。彼らは土地の争いや家臣の統制、年貢の徴収などを円滑に行い、自分の領国を安定して支配するために独自の法律を定めました。鎌倉時代の「御成敗式目」や江戸時代の「武家諸法度」と混同しないよう注意が必要です。
問7	答え 3 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため	戦国大名は、領国内での紛争を解決し、家臣団の結束を固めることで軍勢力を維持し、他国との戦いに備える必要がありました。「甲州法度之次第」では、人々の行動を取り締まることで国の統治を目指す姿勢が示されています。これは中央政府である幕府ではなく、各大名が独立して統治を行っていた実態を反映しています。
問8	答え 2 石見銀山	石見銀山は、16世紀前半に博多の商人である神屋寿禎らによって本格的に開発されました。戦国大名の尼子氏や毛利氏がこの地の支配権をめぐる激しく争い、江戸時代には幕府の直轄地（天領）となりました。島根県の大田市に位置し、世界文化遺産にも登録されています。
問9	答え 2 戦国大名	下剋上の風潮によって、幕府から任命された守護の地位を奪ったり、地域の有力な武士が実力をつけたりすることで新しい支配者が現れました。彼らは自らの力で領国内の家臣や農民を統制し、他の地域と争いながら勢力を広めました。
問10	答え 1 ヨーロッパで宗教改革が起こり、カトリック教会が失った勢力を回復しようとしたため	16世紀のヨーロッパでは、ルターやカルヴァンらによる宗教改革が起こり、カトリック教会は多くの信者を失うなど大きな打撃を受けました。これに対抗するため、カトリック教会内部の立て直しを目指してイグナチオ・デ・ロヨラらによってイエズス会が結成されました。彼らは大航海時代の流れに乗り、失った勢力を補うべく、日本を含む海外への熱心な布教活動を展開しました。
問11	答え 4 領国を独自に統治するため、家臣同士の喧嘩を両者とも処罰する規定などを盛り込んだ。	分国法には「喧嘩両成敗」の原則が多く取り入れられました。これは、家臣が勝手に武力で紛争を解決することを禁じ、大名が裁判権を握ることで領国内の平和を維持し、団結を強める狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、大日本帝国憲法などの説明です。
問12	答え 3 聖書	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問13	答え 4 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため	戦国大名は、自国の軍勢力を強化するために多額の資金を必要としていました。特に種子島に伝来した鉄砲やその弾薬となる鉛、火薬の原料となる硝石を海外から購入するための支払い手段として、また功績のあった家臣への報酬として、銀は極めて重要な価値を持っていました。
問14	答え 2 ヨーロッパで宗教改革が起こり、勢力を立て直そうとするカトリック教会が海外への布教を積極的に進めていた。	ルターやカルヴァンによる宗教改革によってカトリック教会の権威が揺らぐ中、カトリック側は勢力回復のためにアジアやアメリカ大陸への布教を強化した。この流れの中で、1534年に結成されたイエズス会のザビエルが日本へ派遣されることとなった。プロテスタントが本格的に日本に関わるのは、17世紀のオランダやイギリスの来航を待つことになる。